

2024

5 月号

第408号



教区だより

真宗大谷派京都教区 教化広報誌

—(教区教化テーマ)—

南無阿弥陀仏

人と生まれたことの意味をたずねていこう

今月の「ことば」

無くて不満
有って不足の
わたし

今月の「ことば」は、教区駐在教導が担当しています

CONTENTS

2面

今、この時に、
親鸞聖人に会う

やすい しげはる
長浜教区 第24組 安居 重晴氏

3・4・5・6面

特集 教区教化委員会 教化推進本部 および
部落差別問題に学ぶ同朋協議会 総括

おさのりこ ひらはら あきむね
3面 教化推進本部 長 紀子氏 5面 育成研修部会 平原 晃宗氏

たに だいすけ ふじかわ ひでゆき
4面 部落差別問題に 谷 大輔氏 6面 共同教化部会(仮称) 藤川 秀行氏

7面

教務所からのお知らせ

イマダカラ

8面

今月の行事予定

京都教区内の風景をお届けしています。『教区だより』では表紙写真の募集を行っております。詳しくは教務所(教区駐在教導)までお気軽にお問い合わせください。

今、この時に、 親鸞聖人に会う



長浜教区第二十四組浄教寺門徒

安居重晴

南無阿弥陀仏のこころ

「(組門徒会員として)三年の任期を、お陰様で終えさせていただくことができました。声を出して南無阿弥陀仏を称えることができました。ようになりまし。有難う御座いました」

この一文は、今年の浄教寺門徒総会で女性門徒会員(総代)の方が最後の挨拶で述べられた言葉でした。

わずか一分足らずの言葉の中に多くの意味が込められた素晴らしい挨拶であり、私は思わず、喜びと感激を表に出さずにはおられませんでした。以前、私は、長浜教区第二十四組で組門徒会の業務に関わり、組や教務所内でも多数のご住職や門徒の方と親しくお付き合いをさせていただくようになりましたが、その中で私よりも先輩だと思っていたご住職が実は同年代であったことが、ある日の会話で分

かり、「このごえんさんの様に声を出してお念仏を申さねば」と勇気を与えられました。それまでも自分では声を出さねばと思っていたのですが、なかなかその勇気がなく、声が出せない状況がつづいていたのです。思いきって声を出してみると、なぜか気持ちが晴々としたような嬉しい気分になれたことを覚えています。

親鸞聖人の吉水時代、自分で努力し仏になるのだと、もがいて居られた時に、法然上人から、「ただ念仏して弥陀に助けて貰うのです」と説かれ、念仏こそ仏道であることに気づくことができたと言われています。そのお念仏を邪心が入り込んだ心の中で称えるのではなく、声にして阿弥陀如来をたずねることが親鸞聖人の教えの一つだと法話の中で学びました。「ただ念仏して弥陀にたすけられまいらすべし」(『真宗聖典(第二版)』七六八頁『歎異抄』第二章)この心を忘れずに毎日をごしたいと思えます。

教区改編のはじまり

七月からの新京都教区発足に向けて各部会では最終の調整が進んでおりますが、長浜・



長浜教区御遠忌法要 2019年5月 長浜別院 (写真: 安居重晴)

京都それぞれの思いや願いがうまく融合され新しい仲間意識が生まれるように願っているところです。

親鸞聖人の和讃で「善悪の字しりがおはおおそらごとのかたちなり」(『真宗聖典(第二版)』六二六頁)の一節があります。親鸞聖人

八十八歳の時の作で、晩年にかけて著作を書き直し思索を深めてゆくと、知れば知るほどに真の心を失ってゆくことに気づき、自らの戒めと慚愧の気持ちで作られたそうです。

本当に身近なお話でよく似た体験をされた方も多々と思います。少しの知恵なのにそれで何もかも分かったような気分になってしまつて他の人よりも偉そうになつている自分が居る。これを「人間のさが」というのでしょうか。教区改編に当たっては両教区とも長年の歴史や先人たちの思いや知恵により今日まで築かれてきたものを大切に、まことの心を見失うことなくおそらごとになることなく、知らず知らずに傲慢になることなく将来を見据えた新京都教区を住職と門徒が共創し、後につないでゆきたいものです。

特集 教区教化委員会 教化推進本部 および 部落差別問題に学ぶ同朋協議会 総括

教区教化委員会より委嘱されて教化事業を企画運営する「教化推進本部」と、部落差別問題を中心として差別問題や人権学習の場を企画運営する「部落差別問題に学ぶ同朋協議会」、それぞれのリーダーに、現京都教区として最後の三年間を振り返り、総括していただきました。

教区教化委員会 教化推進本部 総括

教化推進本部 副本部長 おさのりこ 長 紀子



二〇二一年六月、教化委員会規則が改正・施行され、教区教化の仕組みが大きく変わりました。

京都教区教化推進本部副本部長を拝命して丸三年になろうとしています。規則改正前から教区の教化に関わることができてきました。改正による本部員の選定方法、各部会の会議のあり方、見直しにより、たくさんの教区人との出会いと、様々な視点をいただきました。

これまで長きにわたり教区教化に関わっていただいていた先輩方の知識と経験に頼ることで、教化事業の運営はスムーズでしたが、次の世代に拡がっていかなかったということがありまし

た。本部員の選定方法については、できるだけこれまで教区教化に関わりのなかった方々に声をかけ、本部員になっていただくことで、風通しよく、裾野が広がったような気がしています。もちろん、初めての教区教化との関わりには不安と戸惑い、また、各部会での事業展開にあっても今までは違うご苦労があったことだと思います。

私が本部員さんと直接関わることは、立場上あまりなかったのですが、お名前を『教区だより』や『真宗』あるいは『月刊同朋』で拝見しながら、ご活躍をうれしく思っていました。例えば、二〇二一年度の発足式はコロナ下で人数制限が設けられ、リモート併用で行われました。人との出会いと対話を大切にしていく教化活動の中でのリモートは、物足りない思いもしていましたが、逆に距離と時間の障壁を低くすることもできたのではないのでしょうか。

新しい本部員さんには、現役の子育て世代、介護世代（なぜか両方とも女性ばかりです）また、現役で兼業生活をされている方々にもたくさん関わっていただくことができました。

それぞれの仕事をしながら教区教化と関わっていただけてきた姿には本当に頭が下がります。職場やご家庭でのやりくりにはご苦労されたのではないのでしょうか。

リモートの活用は、これまで教区教化への関わりに踏み出せなかった方々にも、新しい形に関わってもらえることができるということを証明したと思っています。

私にとって教区教化との関わりは、教区人との出会いをいただく場であり、私の現場であるお寺での教化活動の後押しでもありました。

七月からは教区改編により、新京都教区での教区教化が始まっていきます。この三年間の歩みと出会いは、新教区でも大きな力となって私の背中を押してくれることでしょう。

教区教化の更なる拡がり、新たな出会いを楽しみにしています。



教化推進本部 新教区懇談会 2023年10月 教区会館大講堂

部落差別問題に学ぶ 同朋協議会総括

会長

谷大輔たにだいすけ



当会は発足当初から「同和協議会」という名称で活動してきましたが、今期に「部落差別問題に学ぶ同朋協議会」と名称を変更いたしました。

名称変更にあたり当会の今後の方向性について深く話し合われたことは大事なことでした。当会が差別問題を学ぶことを中心に活動を展開することは教区全体に認識されていることです。その上で、部落差別問題を中心にするのか、それとも部落差別問題にかぎらず人権問題、諸々の差別問題を学ぶことを中心にするか議論がありました。

我々が生きるこの社会には様々な差別事象があり、それぞれに現代の問題が差別というかたちで表出しています。だから当会でも部落差別問題に限定せず、それぞれの差別問題を学ぶべきであるという声も話し合いの中でありました。教区全体をみても、こういった意見は一定数あると思います。

その中で確認されたことは、真宗大谷派教団の歴史でした。大谷派は近世近代そして現在を通して仏法聴聞を教団のいのちとしてきました。しかし大谷派の歴史を顧みるならば、十方衆生に呼びかけられた南無阿弥陀仏のいわれを聴聞し、その教えに深く領いていながら、

被差別部落の方々を十方衆生から排除し、差別を続けてきた真宗門徒のすがたがあります。そして自らの差別心と向き合ったのは、差別事件を機縁とした糾弾からでした。社会性を見失った闘法では、現に社会にある差別であるとか、自らの体質にまでなった差別心を問うことはできなかつたのです。

そういう歴史を踏まえて、真宗大谷派教団に身を置く者にとって、部落差別問題は数ある差別問題の一つとしてある質のものではない。教団と教団に所属する者の差別の歴史を検証し、社会にある部落差別問題を学ぶということは、真宗の教学や教化の内容と教団の体質を問い、各々の真宗門徒の生き方を確かめることとは別のことではない。こういったことを話し合いを通して確かめました。

また親鸞聖人の教えを学ぶ者が差別問題と関わるという場合、差別の社会的解決を願いつつ、自らの差別心を教えに照射されるという視点も見落としてはならないことも確かめられました。

部落差別問題を中心として様々な差別問題を学びつつ、南無阿弥陀仏の教えを通して、社会の差別構造、自らの差別心を問い続けていくことを、当会の今後の方向性とするのが確認され、その方向性を言語化したものが「部落差別問題に学ぶ同朋協議会」という新名称でした。

名称変更に至る話し合いやその後の反応を通して多くのことを感じました。言うまでもな

く今という時代にある様々な差別問題に我が身を学ぶことは重要なことです。そのとき、抜け落ちてはならない大事な視座を、大谷派教団の部落差別に関する差別の歴史とその差別からの解放を願い道を歩まれた先達の願いを学ぶことから頂く、このことを忘れてはならないのです。「教化基本条例」第五条第二項には「僧侶、寺族及び門徒は、部落差別問題をはじめとする様々な差別問題に関する正しい認識に基づき、その解決を自らの課題とし、もって同朋の実を挙げなければならない」とあります。当会は「部落差別問題をはじめとする様々な差別問題」という表現された願いに立ち止まり続けてまいります。



同和協議会現地学習会 2022年5月19日 西光寺

教区教化委員会 教化推進本部 育成研修部会 総括

主査 平原晃宗
ひらのはろあきむね



育成研修部会の三年間の総括として、四つの事業を開催したことから見えてきたことや課題などをそれぞれの研修会別にまとめてみました。

一つ目は、教師を対象とした「伝道研修会」です。一昨年は新型コロナウイルス感染症拡大のため各回一日開催となりましたが、昨年は元の一泊二日のスケジュールに戻しました。しかし、会場等の広さを勘案しての人数制限のため聴講生が参加できなかったことや、教区会館で宿泊できなかったことなど、以前とは異なる形式となりました。その中であって、逆に少人数の受講生のみでより深い学びができました。また勤行時に感話を取り入れるなど新しい取り組みもできました。以前に比べて制限はありましたが、貴重な出会いと学びの場となりました。二つ目、兼職者を対象とし、大谷派僧侶として基礎的な教学と声明作法を学ぶ「拾学舎」は、昨年度と今年度に全六回を開催しました。今回は以前と異なり「葬儀式」というテーマを設定し、第一回と第六回は対面、それ以外はZOOM開催となりました。最終回では、模擬葬儀式を受講者全員で行いましたが、ZOOMとは異なり臨場感もあって、対面で開催できることの大切さを実感した受講生の声も聞か

れました。全体的に参加率も高く、受講者も積極的に充実した研修になりました。

三つ目は、教師試験検定準備学習を行う「教師試験検定準備学習会」です。以前と大きく異なったのは、夏期だけだった学習会を春期にも開催したこと、新型コロナウイルス感染症のためZOOMで開催をしたこと、七日間開催であったものを四日間に短縮したことです。春期開催や期間短縮は受講者の希望や環境に応じたものでもあり、特に問題はありませんでした。四つ目の「得度学習会」は、得度希望者を対象に、僧侶としての基本行儀を習います。形式や進行などは、基本的に例年とあまり変わりませんが、参加人数の関係で状況が異なってきます。そのためスタッフを他の部会にお願いをして増加させるなど臨機応変に対応をしています。最終日に得度考査があるため、日程のほとんどが声明の習礼になります。得度の意義を考える時間や装束作法の時間もあり、二日間の内容は充実しています。

またスタッフ自らも教えに出あい、共に語り合う場を大切にしていきたいという願いのもと、この三年間は教師試験検定準備学習会に使用するテキストをZOOM上で輪読してきました。今後は改編されたさらなる広域教区体制になるので、対面開催、ZOOM開催をそれぞれの

場面で活かせるようなかたちにしていけることが望ましいと感じております。



伝道研修会 法話実習後の合評 2022年1月17日



得度学習会 2024年3月26日

教区教化委員会教化推進本部
共同教化部会(仮称)
総括

主査 藤川 秀行
ふじかわ ひでゆき



アニメ『君の名は。』『すずめの戸締まり』などの楽曲を手掛けたロックバンドRADWIMPSの『おしゃかしやま』という歌をご存知だろうか？

もしもこの僕が神様ならば
 全てを決めてもいいなら
 七日間で世界を作るような
 真似はきつと僕はしないだろう

何かをつくりあげ、決めていかねばならぬことがある場合、現代の私たちは、人の意見をよく聞き、みんなで話し合っていくことを、小さなころから教えられてきた。だからこそ、会議をし、議論をし、合意をはかっていく。私たちの社会は、「一応」そうした形で成り立っている。しかし多くの場合、そうした過程は時間的な制約があり、形だけのものになっていく。時間をかければよいものではない、ということもわかっている(つもりである)。あらゆる組織の中で、周りのペースに合わせられないものは、迷惑をかける存在となり得る。三年経っても(仮称)のままの共同教化部会は、そういう意味で手のかかる存在であったと思う。

二〇二一年六月、京都教区教化委員会規則が改正・施行され、教区教化体制が大きく見直された。二〇二一年度京都教区教化研修計画概要には「一人でも多くの方に教区教化に携わっていただき、寺院―組―地区―教区のつながり(連動)を構築しながら、教区推進本部設置の願い、「教区教化は教区人の手で」を具現化していく」という言葉で、教区教化の理念が記された。

ここにある「教化」や「連動」の具体的な内容とは何を指すのか、当部会では時間をかけて話し合いを続けてきた。そうした経緯を経て、二〇二二年度には「組長・組門徒会長研修会」、二〇二三年度からは「地区・組巡回懇談会」という、話し合いの場と人を拡げることでの課題の共有をはかってきた。

きつともつとちゃんと時間をかけて
 また きちつとした計画を立てて
 だつて焦つて急いで 作つたせいで
 切つて貼つて 作つて壊して

いま、私たちは様々な「つくられたもの」の上に乗っている。来年度からは教区改編による、新教化体制が始まっていく。これらは決して、神様がつくつたものではなく、誰かがひとりで決めたものでもない(ことを願う)。だからこそ、これからも、そこに関わる人たちが点検し、問い返し、話し合うことを止めてはならないのだろう。

法蔵菩薩は、五劫の間考え続けたという。きつと「一応」の合意ではとどまれないものを、私たちのすがたにみたのだろう。だから、たった数年で出したような結果を答えにせず、もつと時間をかけて悩めばいいと思う。今年度から始まった巡回懇談会では、地域それぞれの教化の悩みが見えてきた。

ならば どうすればいい？
 どこに向かえばいい

私たちは、こうした部会としての事業を結果にするのではなく、話し合いの過程であることを肝に銘じたいと思う。私たちは神様でも仏様でもないからこそ、悩んで、迷つて、ぶつかつて、ウロウロしながらも、そんな過程を大切にしてきた。決して「七日間で世界を作るようなこと」にならないために、最後まで考え続ける部会でありたいと思う。当部会は六月をもって消滅するが、上記事業は新体制に引き継がれることになった。その中でも、こうした過程が継続されることを願う。



絵：小早川凡親

教務所からのお知らせ

【敬申】ご生前のご功労を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

・若狭第二組 浄蓮寺

前坊守 山名綾子 九十四歳

二〇二四年三月十三日
〔寺院教会番号順敬称略〕

●京都教区門徒会(臨時会)報告

二〇二四年四月十二日開催の京都教区門徒会(臨時会)において、左記のとおり議決しました。

教区門徒会長

田中正章(近江第二十五西組誓行寺)

教区門徒会副会長

桂喜八郎(近江第十一組 慶照寺)

教区門徒会常任委員

- 伊保弘一(山城第三組 専念寺)
- 後藤又久(近江第一組 泉福寺)
- 今井悦夫(近江第六組 本誓寺)
- 中村正彦(若狭第二組 浄蓮寺)
- 木曾利廣(丹波第二組 極樂寺)
- 瀧村義幸(因伯組 緑浄寺)
- 河野 緑(石西組 西藏寺)
- 西川智子(近江第二十六組 正願寺)
- 久木幸雄(近江第十組 浄称寺)

●京都選挙区参議会議員選挙報告

二〇二四年四月十二日施行の京都選挙区参議会議員選挙の当選人が左記のとおり確定しました。

- 福永莊三(山城第一組 光久寺)
- 柴田慶三(山城第一組 常念寺)
- 寺内 実(近江第四組 専念寺)
- 中谷哲夫(近江第七組 舊縁寺)

今年に入ってから、「五帖御文」にフリガナを付けたプリントを作成している。以前から法要で御文を拝読する際には、お参りいただいた方に内容が伝わるようにプリントを配っている。文字を見ながら聞いていただいた方がより内容が伝わるのではと期待していたことだ。作法として正しくないのはわかっているが、現代では使われない言葉を音声だけで聞いている人も眠くなるばかりだろう。

イマダカ

今年度のプリント作成は「字が小さすぎて読めん」というご意見をふまえて、まず文字を大きくした。さらにすべての漢字にフリガナを付けている。こちらの読み間違いを探すかの如く熱心に文字を追いかけてくださる方のためだ。その結果、以前は掲載していた現代語訳は外さざるを得なくなった。こういうプリントは「一枚もの」というこだわりだ。

プリントは一帖目一通から始め、作成中は御文をしっかりと読む。作法や読み方を気にした拝読ではなく、文字や意味を考えて読んで写す。すると、今さらながら「こんな内容だったんだ」と発見の連続である。恥ずかしながら、今まで自分が内容に意識を向けていなかったことに気づかされ、ただただ反省しきりだ。あるいは、やっと内容に意識が向けられるところまで知識が追い付いてきたのかもしれない。まさに「無明の闇」が照らされた気分だ。まだ「気分」としか言えないのが残念だが…。

昨今の社会変化によって、法要では読みづらいお手紙もあるのだが、だからこそ現代の私たちにふさわしい「これぞ」というお手紙を自分なりに選び出してみたい。『歎異抄』の解説本はこの書店でも見かけ、カジュアルなものまでたくさんあるが、『御文』の解説本は見かけることがほとんどない。両著作にある認知度の差は文章量の差もあるのではないだろうか。世間の皆様に知れ渡って欲しい「選び出し」をしてみたい…ここに書けば、サボらないかな(苦笑)。

(共同教化部会(仮称))

黄楊川淳(つげがわあつし)

編集後記

The editor's note

写真はおもしろい。同じ景色を見ても、感じることや何をどう写すかは一人ひとり異なる。写真には撮る人の気持ちも写っている。▼知人から二冊の写真集を薦められた。日常の風景を写したもので、

撮影者が何を見て何を大事にされているかが伝わってきた。▼「見る」とは、こういうことかと、自分が恥ずかしくなった。いかに自分は見えていないか、「見ようとせず」に日々を過ごしているか、写真から思い知らされた。(出版部会 前田素子(まへだもとこ))

京都教区 5月の行事予定

教区・地区・所属団体事業		
8日(水)	9:30～15:30	坊守会 基礎講座 (zoom 併用) 教区会館 2階 大講堂
26日(日)	16:00～18:00	教区 仏青 公開講座 講師 落合誓子氏 (熊登教区 乗光寺) 教区会館 2階 大講堂
教区諸会議		
1日(水)	11:00～15:00	教化推進本部 男女共同参画部会 教区会館 3階 会議室
2日(木)	10:30～15:00	教化推進本部 青少幼年教化部会 教区会館 3階 会議室
8日(水)	13:30～16:30	教化推進本部 出版部会 (Zoom 会議) Zoom
10日(金)	13:30～16:30	新教区準備委員会 教区会館 2階 大講堂
14日(火)	13:30～17:00	新教区役職者 就任予定者 懇談会 長浜教務所
17日(金)	14:00～17:00	教化推進本部 常任本部会 教区会館 2階 大講堂
21日(火)	13:30～17:00	教化推進本部 教化推進本部会 教区会館 2階 大講堂
23日(木)	13:30～17:00	教化推進本部 調整協議会 教区会館 2階 大講堂
24日(金)	13:30～16:30	新教区準備委員会 常任委員会 長浜教務所
教区別院事業		
1日(水)	12:00～13:00	赤野井 定例法要 (教如上人御命日遠夜) 法監 中川眞 師 (輪番) 赤野井別院
6日(月祝)	14:00～16:00	伏見 声明作法講座 法監 浅井誠 師 (山城組 皆演寺) 伏見別院
9日(木)	11:00～11:20	大津 蓮如上人御影道中 法監 東金慈 師 (随行教導) 大津別院
9日(木)	13:00～14:00	山科 蓮如上人御影道中 法監 東金慈 師 (随行教導) 山科別院
10日(金)	14:00～16:30	伏見 同朋会 「御文」 輪読 伏見別院
13日(月)	10:00～11:30	岡崎 三日講 「味読正信偈」 法監 福田大 師 (輪番) 岡崎別院
15日(水)	14:00～16:00	山科 永代経 (定例法話) 法監 沙加戸崇 師 (近江組 響忍寺) 山科別院
16日(木)	14:00～16:00	大津 同朋の会 聞法会 法監 泉阿弥華 師 (山城組 泉龍寺) 大津別院
20日(月)	19:00～21:00	伏見 親鸞教室 「正信偈に学ぶ」 法監 藤原正寿 師 (大谷大学准教授) 伏見別院
23日(木)	10:00～11:30	岡崎 三日講 「蓮如上人を訪ねて」 法監 松岡響 師 (列座) 岡崎別院
27日(月)	12:00～13:00	赤野井 定例法要 (宗祖親鸞聖人御命日遠夜) 法監 中川眞 師 (輪番) 赤野井別院
27日(月)	13:30～16:30	山科 同朋の会 法監 赤松崇磨 師 (教区駐在教導) 山科別院
27日(月)	14:00～16:00	伏見 ご命日のつどい 法監 治田義章 師 (近江組 善念寺) 伏見別院



NEW 教区だより 表紙写真大募集!!

新京都教区のスタートに合わせて、2024年7月号より、本誌もリニューアルします。表紙は、写真を全面に使用した新しいデザインになります。そこで、表紙写真を大募集いたします!テーマは宗祖親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要テーマ「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」です。ご応募は、京都教務所(担当:赤松)まで。お待ちしております!

「令和六年能登半島地震」災害に対する
第二回 救援金の勧募について(依頼)
 去る一月一日「令和六年能登半島地震」が発生し、能登地方を中心に広域にわたり未曾有の被害をもたらしました。多くの寺院・ご門徒が甚大な被害を受け、大変深い悲しみと不安の日々を過ごされております。つきましては、何卒ご理解を賜り、有縁の方々にもお声がけいただき、可能な限り救援金をお取り纏めの上、送金くださいますようお願い申し上げます。
 また、このたびの被害状況から、京都教区としての救援金支援は、複数年度間に亘る必要があると考えております。五月一日より第二回目となります。今後の継続支援として、引き続きご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。
京都教区救援金総額
 二〇二四年 四月 十日 現在
13,385,686円

真宗大谷派 京都教区 教化広報誌

『教区だより』第408号

【発行人】 篠岡誓法(真宗大谷派京都教務所長)

【発行所】 真宗大谷派京都教務所

〒600-8164 京都市下京区花屋町通烏丸西入

Tel:075(351)5260 Fax:075(351)5256

【表紙の写真】 初夏の放牧 (石東組 善徳寺 河野恵嗣)

発行日 2024 (令和6) 年 5月 1日

メールアドレス: kyoto@higashihonganji.or.jp

真宗大谷派 京都教区 Webサイト

https://www.k-kyoku.net

京都教務所

検索

